

第57回神奈川建築コンクール 一般建築物部門 最優秀作品選評「湘南学園小学校」

審査委員 国吉 直行

本プロジェクトの敷地は、第1種低層住居専用地域にあって、一般戸建住宅群と近接した位置にある。既存の校舎も一部活用し、グラウンドを最大限確保するなど学校としての機能面からの与条件の下、周辺住宅地との調和の確保も課題とされる中、これらを巧みに克服するとともに、校舎の機能についても意欲的な提案を持って取り組まれている。

校舎の外観の第1印象は、落ち着いた低層集合住宅を思わせるものであったが、これは、湾曲した壁面と細やかな分節化の工夫、壁面素材と色彩、軒高を抑えた勾配屋根、体育館の半地下化などによるものである。また、これらの工夫により、周辺戸建住宅地への圧迫感を和らげ、町並みの連続性確保にも効果をあげている。

校舎の空間構成としては、メディアセンターというグループ学習の場を設け、これを教室群をつなぐ機能（広場）として、教室群の中心に配置し、児童間、児童と先生との日常的な交流を活発化させる場としている。

教室は円弧状にずらすことにより、個々の個別性を高めるとともに、外観での分節化にも効果をもたらしている。各教室には、端部に先生コーナー、児童用ロッカースペースなどを設け、学びと生活の共存する場づくりを図っている。

教室の自然換気や屋上緑化、ビオトープなど環境面からの工夫も評価できる。

地域環境へ配慮するとともに、教育の場として、児童相互、児童と先生のふれあいの機会を重視しようとする学校側の意図、それに意欲的に応えた設計者の共同作品となっています。その個性的な意図が、今後の学校教育運営の中で花開くことを期待します。